

**産廃処理施設設置の阻止、水道水源の保全を目的に
上綱子地内の土地33・7ヘクタールを1億189万円で購入へ**

臨時市議会が9日開催されました。今回提案された議案は、06年度一般会計補正予算、水道水源保全用地の取得など4件。いずれも賛成多数、または全会一致で可決しました。今回の臨時会で焦点となったことのひとつは、上綱子地内の用地取得です。上綱子の産廃廃棄物処理施設の設置計画については、谷浜地区の町内会がこぞって反対に立ち上がり、上越市、議会を巻き込み、水道用水が供給される町村にも運動を広げて17万を超える署名を集め、それが力になって業者を断念に追い込んだ経緯があります。市では、「今後も同地内における産廃廃棄物処理施設の設置を永久的に阻止し、水道水源の保全や自然環境を保護する」ことを目的に補正予算、土地所有者との契約を提案してきました。

日本共産党議員団は杉本議員が総括質疑でこれまでの経過をたどりました。党議員団としては、桑取のゴルフ場を断念させた跡地(現在、湯ったり村や市民の森になっている)の購入を提起した経緯があります。西部中山間地は上越市の水がめですので、必要な措置の一つと考え、賛成しました。なお、この問題に関連して市民クラブ内の2人の議員が購入に反対しました。

もうひとつ焦点になったのは、板倉区内の光ヶ原高原観光総合施設など3施設の管理です。ここでは、指定管理者が突如会社を解散し、市の施設などの利用が制限される事態が発生、今回、市直営に切替える条例改正が提案されました。

この問題では杉本議員が総括質疑で管理会社の運営能力の判断に問題がなかったか、市民に不利益を与えない仕組みづくりをどう考えるかなどについて市長の見解をたずねました。また橋爪議員も文教経済常任委員会で市当局を追及、業者を選定する委員会では経営改善の努力を条件に選定したなどの新たな事実がいくつか判明しました。住民サービスを低下させないためには、指定管理者の当該施設の経営だけでなく、指定管理者自体の経営状況がどうなっているかを把握できる仕組みづくりなどの課題が浮き彫りになりました。

安全チェックも二重化などの改善を

正規の議案ではありませんでしたが、学校などのプールの

安全対策についても報告があり、文教経済常任委員会で議論になりました。

橋爪議員は、「(市教委などが示した)新たな対応策の内容のほとんどは、これまでの厚生労働省や文部科学省が出した通知と同じだ。問題は、なぜこれらが徹底しなかったかだ」「安全管理・チェックは担当外の者に加え、もっときびしくと訴えました。

プールは、夏休み中の子どもたちにとって大きな楽しみのひとつです。早期に安全管理を確立してほしいものです。



暑いお盆は自然の中で過ごすのが一番

各地の釣り堀は親子連れで賑わいました。写真左は柿崎区の大出口、バックは日本海です(16日撮影)。写真右は大島区板山不動尊の近くで魚つかめをする子どもたち(13日撮影)。

**会派再編をうけ
18日に各派代表者会議**

政和クラブ(滝沢逸男代表)が15日解散し、4会派に分かれました。これにより市議会は9会派(党)となりました。まさに多会派時代の到来です。18日には各派代表者会議が開かれます。

今回の再編で、市議会会派は最大の所でも毘風(びふう・早津輝雄代表)の11人となり、それに続いて市民クラブ(近藤彰治代表)、政新(岩崎哲夫代表)、創風(そうふう・滝沢逸男代表)が各8人となります。

市議会では5月に議会人事をしたばかりですが、今回の再編により問題となるのは、政和クラブ所属だった正副常任委員長の処遇です。これまでは、あらかじめポスト数を会派に割り当てるやり方をしてきましたが、本来なら各常任委員会の正副委員長は、それぞれの委員会の中で誰がふさわしいかよく話し合っ互選するのが原則です。

議会改革の推進をかかげる山岸新議長のもとで、新たな改革の動きをつくりだしたいものです。

日本共産党上越市議員団ニューズ

59	2006年8月20日
連絡先	杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
	樋口良子 544-6802 (中門前3)
	橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)